

所 信 表 明
並 び に
令和３年度市政運営方針

和泉市長 辻 宏 康

所 信 表 明

《 はじめに 》

市長選挙後、初めての市議会になりますので、私の所信の一端を申し述べ、市議会議員並びに市民皆様のご支援とご協力をお願いする次第でございます。

この度の市長選挙におきましては、無投票当選という形で4期目の再選を果たすことができました。これは、議員並びに市民皆様のご協力を得て実現できたこれまでの取り組みについて、一定の評価をいただけたこと、また、新型コロナウイルス感染症など直面する行政課題への対応の期待と受け止めており、その責任の重大さに、身の引き締まる思いでございます。

4期目の市政運営を担うことについては、行政の硬直化を招くなど心配される声もあるかと思いますが、今まさに新しい任期のスタートラインに立ち、気持ちを新たにしたところでございます。

論語で「民 信なくば立たず」という孔子の教えがあります。政治においては「食を満たし、兵を整え、民衆から信頼される」ことが大切であり、その中でも特に重要なものが「民衆からの信頼」で、

政治は民衆の信頼なくして成り立つものではなく、民衆との間に信頼感を醸成し、安心して生活できる環境をつくる必要があるというものです。

私が政治の道を歩み始めた25年前、理想とした政治は、「人と人とのつながりを感じられる政治」、「一生懸命頑張っている人が報われる政治」、「弱い立場の人を本気でいたわることができる政治」で、その実現には、正に市民との信頼関係が必要不可欠でございます。

このことを決して忘れることなく、皆様からの声を真摯に受け止め、さらなる和泉市の発展のため、全身全霊をささげる所存でございますので、引き続き、皆様のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、私のこれまでの3期の歩みを振り返りますと、「和泉再生プラン」、「和泉躍進プラン」、そして現在の「和泉創発プラン」のもと行財政改革を推進し、財政再建を図りながら、公約を中心とした様々な施策を実行してまいりました。

特に市立病院につきましては、将来にわたり地域医療の核となる総合医療センターとして整備し、救急医療の再開やがん診療など高度医療の提供、経営の黒字化を達成することができました。

また、長年の懸案であった新庁舎の整備については、去る５月５日に落成式典を行い、老朽化や耐震性、利便性などの課題を抱えていた旧庁舎が市民の安全と安心を支える防災機能やユニバーサルデザインを備えた新庁舎に生まれ変わりました。

開庁後、約２か月が経過したところですが、最も心配しておりました行政システムのトラブルや窓口の混乱などもなく、順調なスタートを切ることができました。この新庁舎は、市民に末永く愛され、和泉市のさらなる発展のシンボルになるものと確信しております。

ここに至るまでには、数々の困難がありましたが、職員や議員の皆様と積極的な議論を行い、アイデアをいただきながら、一つ一つ課題を解決した積み重ねが、大きな目標を達成することにつながったと考えております。

改めて、ご支援とご協力をいただきました議員並びに市民皆様に厚くお礼を申し上げますとともに、今後も格別のご指導を賜りますようお願いいたします。

《 基本的な政策方針 》

令和２年度は、新型コロナウイルス感染症による苦難の年となりました。外出自粛や飲食店への休業要請、各種イベントの中止、公

共施設の休館に加え、小中学校の臨時休業など、市民皆様には大変なご苦勞と我慢をお願いし、感染拡大の防止にご協力をいただき、心から感謝申し上げます。

本市では、これまで新型コロナウイルス感染症への対応として、水道料金の減額やお買い物チケットの配布、各種事業者への支援など第1弾から第5弾にわたる市独自支援策を打ち出し、スピード感を持って取り組んでまいりました。

また、感染症の収束に向けて効果が期待されるワクチン接種について、いち早く専任の部署を設置し、集団接種を開始するなど、円滑な接種体制の構築に取り組み、現在、高齢者の優先接種が順調に進んでおります。

皆様の日常生活を一日でも早く取り戻すため、引き続き、ワクチン接種の推進をはじめとした感染症対策や生活支援に取り組んでまいります。

一方、長期的な視点で本市の歩みを振り返りますと、昭和31年の誕生時に約5万人であった本市人口は、現在、約18万5千人にまで発展しましたが、ピーク時からすると約2千人減少し、少子高齢化・人口減少による社会問題が顕在化し始めております。

本市が未来に向けて「躍進」し、次の世代につないでいくためには、このコロナ禍を乗り越え、その先に向けた施策を展開していく必要があります。

これまで60年あまりの長きにわたり、先人達が築き上げてきたこの魅力ある和泉市を、次のステージに進めるべく「命と暮らしを守り 未来を拓く」を合言葉に、3つのテーマを掲げ、市政運営に取り組んでまいります。

1. 市民の命と暮らしを守るまちづくり

2. 子どもたちの未来が輝く子育て・教育のまちづくり

3. にぎわいがあふれ活力のあるまちづくり

それでは、3つのテーマに沿って、取り組むまちづくりについて、ご説明を申し上げます。

【1. 市民の命と暮らしを守るまちづくり】

市長に就任して以来、「市民の命と暮らしを守る」ことが行政の最も重要な役割であるとの認識のもと、災害対策や市立病院の再生などに注力してまいりましたが、先の東日本大震災や今般の新型コロナウイルス感染症など、未曾有の国難と呼ばれる事態が発生し、緊急時における行政の判断や対応が市民の命と暮らしに大きな影響を

与えることを強く実感しております。

まずは、喫緊の課題であるコロナ禍の状況を打破することに全力を注ぎつつ、市民が将来にわたり安全・安心に暮らすことができるまちづくりに向けて、有事に対する備えや被害を最小限に止める取り組みを推進します。

具体的には、新型コロナウイルス感染症への対応として、医師会や民間病院、大阪府等との連携を一層強化し、現在実施している高齢者や基礎疾患を持つ方へのワクチン接種を早期に完了させ、一般市民への接種を迅速に進めます。また、感染症に関する迅速かつ正確な情報発信と相談支援体制の強化に取り組めます。

次に、防災・防犯への対応として、町会館等に災害情報の戸別受信機を設置するほか、災害活動拠点となる消防庁舎の移転整備や市域における防災備蓄品の拠点となる防災備蓄センターの整備、青色防犯パトロール車の活動支援に取り組めます。

【2. 子どもたちの未来が輝く子育て・教育のまちづくり】

本市では、これまで、こども医療費助成や妊婦健康診査の拡充、小中学校・幼稚園への空調整備、いずみ希望塾の開設など子育て支援と教育環境の充実に積極的に取り組んでまいりました。

その結果、子育て世帯の転入者数は転出者数を上回っており、市民アンケートでも、子育て・教育に関する満足度が向上するなど、子育てしやすいまちとして市民皆様に評価いただいております。

全国的な少子化に立ち向かい、今後もこの流れを継続させるためには、子育て世帯の定住促進に向けて、さらなる子育て環境と教育環境の充実を図り、「子育て・教育のまち」という都市イメージを定着させる必要があります。

まず、子どもたちが誰一人取り残されることなく、安心して育ち、学ぶことができる環境を整備するため、国の方針に先駆けて、中学校の少人数学級編制に取り組み、令和6年度を目処に、全国学力学習状況調査の全教科で大阪府の平均点以上をめざしてまいります。

また、一人一台配布したパソコン端末を積極的に活用し、デジタル教科書やオンライン教育の導入を検討するなど、子どもの習熟度にあわせた質の高いICT教育の推進に取り組みます。

その他、産婦健康診査の実施や本市初となる医療的ケア機能を備えた保育施設の誘致、公共施設を活用した自習室の拡充、水泳授業への民間活力の導入に取り組みます。

【3. にぎわいがあふれ活力のあるまちづくり】

今年、本市は、市制施行 65 周年を迎えますが、新庁舎の開庁に加え、誘致に成功した 2 軒目となるホテルの着工も始まるなど、都市としての魅力の高まりと成長を実感しているところです。

しかしながら、今後、本格化していく人口減少・高齢化社会においても、持続可能なまちとして発展し続けるためには、地域ごとの特色や強みを活かした新たなにぎわいを創出するとともに、全ての市民が元気に活躍できるまちであることが必要です。

私は、この 4 年間で 10 年後、20 年後さらには 35 年後の市政 100 周年を見据えた和泉市の礎を築くための 4 年間と位置づけ、新たなにぎわいの創出につながる未来への投資と市民の活力を創出する施策の推進に取り組めます。

具体的には、富秋中学校区等における活性化とスポーツ・文化振興の核となるアリーナ整備構想の検討に着手し、自然環境保全に関する請願を受け計画がストップしていた北部地域におけるスポーツ施設の整備構想を策定します。

また、市民が身近で気軽に実施できる 10 のランニングコースを設置するとともに、池上曾根史跡公園でグラウンドゴルフなどを楽

しめる（仮称）池上プレイステージの整備に取り組みます。

そして、南部地域の活性化を図るため、（仮称）和泉市南部地域等まちづくり計画を策定し、大阪外環状線沿道における産業誘致や景観形成、移住者への支援に取り組みます。

その他、和泉中央駅前広場及び周辺整備の推進や青少年の家及び老人集会所のリニューアル、障がい者就労支援センターの設置、高齢者おでかけ応援バス等の拡充に取り組みます。

【その他の主な取り組み】

新型コロナウイルス感染症の拡大を契機として、行政のデジタル化が非常に遅れていることが露見しました。本市においても、これまで、電子決裁の導入やLINEを活用したオンライン予約の導入、全庁的な押印手続の廃止などに取り組んできましたが、決して十分とは言えません。

電子申請の拡大や窓口手数料のキャッシュレス化など市民が求めるサービスを迅速かつ簡素に提供できる体制を構築することはもちろん、AIの活用などによる行政内部の効率化にも積極的に取り組んでまいります。

《 市政への想い 》

以上、私が4期目の市政に臨む所信の一端を申し述べさせていただきました。

さて、干支は60年で一周するものですが、今から60年前の1961年に坂本九さんの「上を向いて歩こう」が大ヒットし、日本人がアメリカのビルボード誌で、唯一週間1位を獲得しました。

その後、1964年に開催された東京オリンピックでは、日本が金メダル16個を含む計29個のメダルを獲得し、日本中の人々に勇気と感動を与えてくれました。

そして、1970年には、「人類の進歩と調和」をテーマとした大阪万国博覧会が開催され、常識を覆す超巨大プロジェクトに賛否両論ありましたが、約6,400万人が来場し、大成功を収めました。

この二つのプロジェクトは、日本が高度経済成長期を駆け抜けていく時代の象徴となりましたが、60年近く時を経た現在も同じように、東京オリンピック・パラリンピックが、そして、大阪・関西万国博覧会が開催されようとしています。

新型コロナウイルス感染症により、先行きが見えにくい状況ですが、進むべき道の選択を迫られたときは、2つの考え方があります。

一つは、不安を見て慎重に対処する考え方で、もう一つは、希望を見て一歩踏み出していく考え方です。

明治維新や第二次世界大戦の敗戦を乗り越えてきた時代の先人達は、どちらの考え方で日本の未来を選択したのでしょうか。

新型コロナウイルス感染症という未曾有の危機に直面し、社会全体が大きな変革期を迎えている中、和泉市においては、新庁舎が開庁し、新しいステージへの第一歩を踏み出そうとしております。

このような時期に、市政を私に託していただいた皆様の思いに応えるべく、市長就任以来、最高の気力・体力の充実を実感し、力がみなぎってくる思いであります。

私が職員の先頭に立ち、「和泉市の明るい未来」のため、どのような困難や課題があろうとも、上を向き、果敢にチャレンジしてまいりますので、議員並びに市民皆様におかれましては、格段のご支援、ご協力をいただきますよう心からお願い申し上げます。

令和３年度 市政運営方針

続きまして、令和３年度の基本方針とその概要につきまして、先の第１回定例会においてご可決賜りました当初予算及び補正予算並びに今議会にご提案申し上げております補正予算（案）に基づき、ご説明いたします。

《 令和３年度予算の概要 》

令和３年度当初予算は、政策的な判断を伴う事業を盛り込まない「骨格予算」として編成したところですが、「和泉創発プラン」に基づき、昨年度から取り組んでいる事業については、新規事業も含め計上させていただきました。

具体的には、こども医療費助成の対象年齢拡大や令和７年の開校をめざす（仮称）槇尾学園の整備など、子育て・教育環境の充実に向けた事業に加え、和泉中央駅周辺や北信太駅前整備、老朽化した消防本部・消防署の移転整備など本市の未来に欠かせない事業を予算計上いたしました。

また、新型コロナウイルス感染症への対応につきましては、当初

予算に追加の補正を行い、市民1人あたり3,000円の割引チケットを配布するお買い物割引チケット事業（第2弾）や求職者の雇用を促進するための就労支援事業の継続、公共施設への検温モニターの設置など第5弾となる市独自支援策を予算計上しており、切れ目のない支援に取り組んでまいります。

そして、この度の本定例会におきまして、4期目の公約に掲げた事業を中心とした「肉付け予算」を編成し、ご提案させていただいたところです。

《 令和3年度に取り組む主要な事業 》

それでは、令和3年度に取り組む主要な事業について、「第5次和泉市総合計画」の体系に沿って、順次ご説明いたします。

1. 定住の促進

（「結婚・出産・子育て」に夢や希望が持てる環境づくり）

○新婚世帯に家賃等を支援する結婚新生活支援補助金について、対象年齢を39歳まで拡大するとともに、所得条件を400万円未満に緩和します。

- 子育て世帯の移住・定住を促進するため、市内事業者と連携し、和泉市に住むことの魅力を伝えるバスツアーを実施します。
- 産後早期に産婦の状況を把握し、適切に産後ケアへ繋げ、産後うつを予防するため、産婦健康診査を実施します。
- こども医療費助成について、本年４月診療分から対象年齢を年度末年齢１８歳まで拡大しており、引き続き、子育て世帯への経済的支援に努めます。
- 「和泉市輝く子どもを育む教育のまち条例」に基づき、社会総がかりで子どもを育むという理念の周知啓発に努めます。
- 認定こども園等の施設改修を支援し、保育環境の改善と待機児童の解消に取り組みます。

(社会に貢献できる人材輩出に向けた教育環境の充実)

- 教育を取り巻く環境の変化や新たな課題に対応するため、本市の教育の理念と方針を定める「和泉市教育大綱」を改訂します。
- 施設一体型義務教育学校の整備について、槇尾中学校区では、デザインビルド方式（設計・施工一括発注方式）での事業者選定や通学バスのあり方検討に取り組み、富秋中学校区では、学校名の検討や基本計画の策定に着手します。

○児童生徒の学びを保障し、学力向上を図るため、学習用パソコンを活用したオンライン学習など、新しい学びの形を積極的に取り入れます。

○より安全・安心・快適な水泳授業の導入に向け、民間の屋内プールを活用した学校水泳のモデル事業を実施し、効果や課題を検証します。

○小学校の外国語の授業において、ネイティブな英語に触れる機会を充実するため、外国語指導助手（ＡＬＴ）を増員します。

（一人ひとりが輝くための生きがいづくり支援）

○コロナ禍においても気軽に読書を楽しむことができる電子図書館の蔵書を充実するとともに、子どもの読書への意欲を高めるため、読書コンクールを開催します。

○久保惣記念美術館において、昨年度開催を見送った特別展「土佐派と住吉派 其の二 ーやまと絵の展開と流派の個性ー」を開催します。

（健康寿命の延伸をめざした健康づくりの推進）

○老朽化した横山老人集会所の建替工事を行います。

(外出機会を創出するうるおいのある都市基盤の整備)

○芦洗公園について、災害時の一時避難地の機能を持つ身近な憩いの場として整備工事を行います。

○大阪外環状線沿道の良い景観形成と産業活性化に寄与する土地利用を検討するため、「外環沿道土地利用基本計画」を策定します。

○安全・安心で良好な住環境を確保するため、所有者が確認できず、倒壊の危険性が高い空家等の略式代執行による除却を行うほか、老朽化した危険な空家等の除却費用を補助します。

○和泉中央線の国道480号から観音寺町の区間で課題となっている交通渋滞について、原因を分析し、対策を検討します。

○和泉中央駅前広場について、一般車乗降場の設置や歩道屋根の増設、府道三林岡山線の歩道設置などを行い、快適で利用しやすい駅前広場にリニューアルします。

○和泉中央駅周辺の渋滞対策として、いぶき野大橋東交差点の改良工事を行います。

○北信太駅の東西自由通路整備に向けた実施設計及び事業用地の取得に着手するとともに、仮設駐輪場の整備工事を行います。

○要支援者の移動支援や生活支援を行う地域活動団体等に対する補

助制度を創設します。

○槇尾中学校区において、生活利便性の高い持続可能な公共交通ネットワークを形成するため、交通事業者や地域と協働して、学校通学バスを含めた交通体系の検討に取り組みます。

2. にぎわいの促進

(活力ある地域産業の実現と地域雇用の創出)

○道の駅「いずみ山愛の里」の活性化を図るため、令和4年度からオープンする新たな農産物直売所や多目的広場の遊具の整備工事を行います。

○新たな農産物の産地化など、地域農業の活性化を図るため、(仮称)和泉市農業振興研究施設の整備工事を行います。

○森林の適切な経営管理を行うため、森林環境譲与税を活用し、森林調査及び危険木の撤去等を行います。

○コロナ禍により就職が困難な市民の就労を促進するため、市内中小事業者等に支援金を給付します。

○経営状況が悪化した中小事業者等の事業継続を支援するため、令和3年度固定資産税等の一部相当額を補助します。

(新旧の魅力が融合する観光の振興)

○和泉市の新たな魅力を創出するため、お土産品の開発に取り組む事業者を支援します。

○史跡池上曾根遺跡の適正な保存と観光拠点としての活用を促進するため、保存活用計画を踏まえ、再整備計画を策定します。

○地方創生推進交付金を活用し、和泉・久保惣ミュージアムタウンエリア内にアーティストや地域住民、来訪者が集う交流拠点を創出します。

3. 安全・安心の促進

(住み慣れた地域で安心して暮らすことができる仕組みづくり)

○家庭内感染を防止するため、濃厚接触者が家族との接触を避けるための宿泊費用を補助します。

○市立総合医療センターにおいて、国指定の地域がん診療連携拠点病院として高度ながん医療を提供するとともに、心臓血管外科で手術が行える体制を構築します。

○がん患者の精神的ケアと療養生活の質の向上を図るため、医療用ウィッグの購入費用に対する補助制度を創設します。

○在宅の高齢者や重度の身体障がい者が安心して暮らせるよう、人感センサーを新たに搭載した緊急通報装置の設置を促進します。

○地域の防犯活動を推進するため、防犯活動を行う団体に青色防犯パトロール車用のドライブレコーダーを支給します。

(災害に備える仕組みづくり)

○災害時において必要な情報を市民に確実に届ける手段の一つとして、町会館及び自治会館に防災無線の戸別受信機を設置します。

○地域住民が結成する自主防災組織の活動を促進し、組織力の向上を図るため、資機材の購入や訓練活動費用を補助します。

○避難者の健康保持と教育活動における熱中症対策を図るため、広域指定避難所である中学校及び義務教育学校の体育館に空調を設置します。

○消防庁舎の旧市立病院跡地への移転建替えに向けて、実施設計を行います。

○大地震や豪雨等の自然災害に備え、南池田地域のため池 6 箇所について、ハザードマップを作成します。

○自然災害発生時に排出される災害廃棄物を適正かつ迅速に処理するため、「災害廃棄物処理計画」を策定します。

○水道施設の強靱化と最適配置を図るため、老朽化や耐震性に課題がある山荘配水場の廃止に向け、はつが野配水場等から山荘配水区域へ新たな管路を整備します。

4. 支えあい・協働の促進

(多様性を認め合う人権尊重のまちづくり)

○感染者への差別やネット上の人権侵害など、新たな社会問題が顕在化している現状を踏まえ、人権尊重の理解を促進する市民の集いや研修等の啓発事業を実施します。

○手話が言語であること及び多様なコミュニケーション手段への理解を促進するため、手話に関する職員研修や市民が参加しやすい手話講座を開催します。

5. 都市経営の促進

(既存ストックの適正管理の促進)

○富秋中学校区等において、再編する公共施設の基本計画を策定し、民間事業者を活用した施設整備や余剰地活用の検討を行うなど、「富秋中学校区等まちづくり構想」の事業化を推進します。

○「公共施設等総合管理計画」の改訂に着手し、公共施設等の効果的かつ効率的な管理を推進します。

(市民の信頼に応え、都市経営を支える行財政運営)

○新庁舎の開庁に続いて、旧庁舎の除却や3号館の改修を行うとともに、飲食物販棟や立体駐車場、外構の整備工事を進めます。

○マイナンバーカードの交付率向上を図るため、休日開庁日の拡大や交付申請サポート体制の強化に取り組みます。

○市民サービスの向上及び事務の効率化を図るため、証明書の発行や届出にかかる電子申請サービスを拡大するほか、A I や業務自動化ツール等のI C Tの活用を推進します。

○入札事務の効率化や公平性・透明性の向上、入札参加者の負担軽減を図るため、電子入札システムを導入します。

○水道事業における経営基盤の強化や運営の効率化を図るため、大阪広域水道企業団との統合に向けた検討を行います。

○外国人への情報発信を充実するため、市ホームページ内のP D Fデータを多言語で翻訳する自動翻訳システムを導入します。

《 結びに 》

以上が、令和３年度市政運営方針でございます。

冒頭申し上げたとおり、新型コロナウイルス感染症を契機に、社会の価値観が大きく変わろうとしています。

このような時代の変革期においてこそ、改めて市民の暮らしと行政のあり方を見つめなおし、和泉市をさらに飛躍させるチャンスと捉え、よりよい暮らしと持続可能な社会の構築に向けた「改革」を推進してまいりますので、議員並びに市民皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。